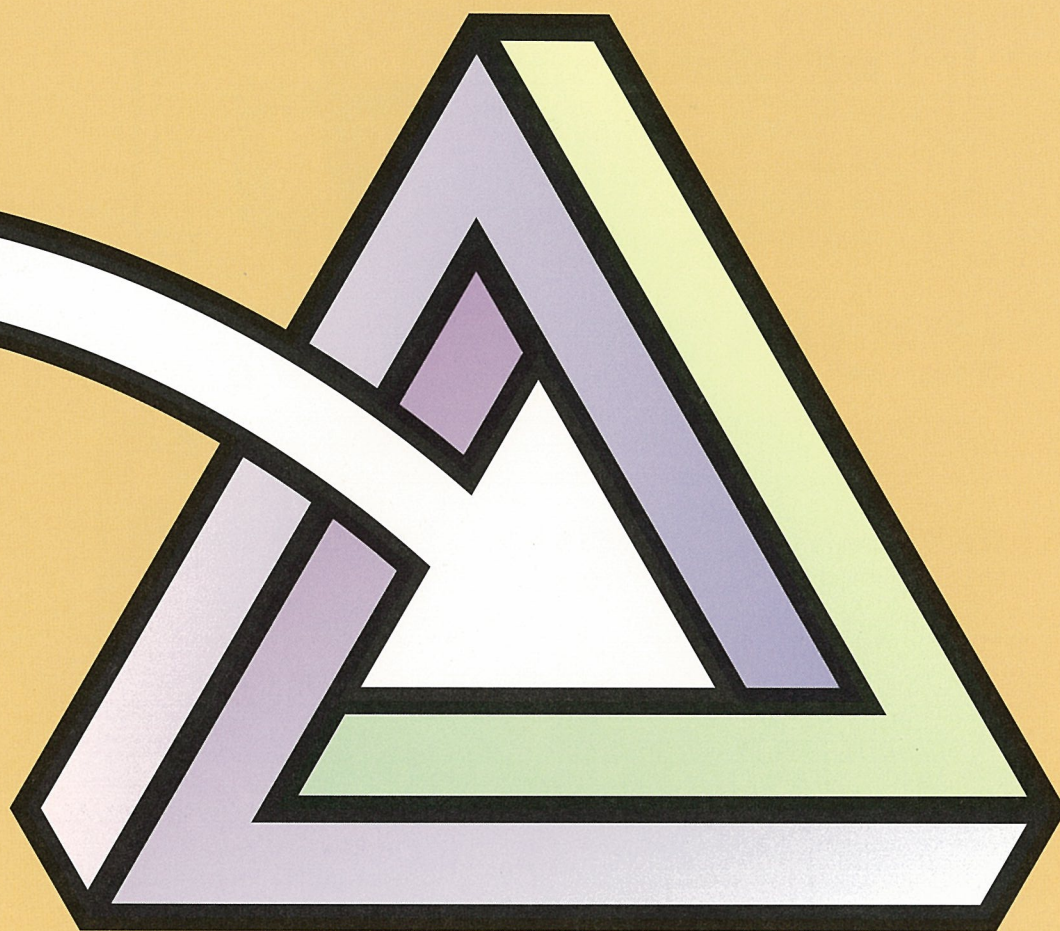


RECRUIT

# 『基礎力』の育成で繋がる 教育現場と社会

この先の社会で働くために必要な力を、学校で育てる



Works Institute

# これからの社会に 何が必要か。 働く上での基本となる 『基礎力』 について定義する。

社会で求められている能力はさまざまなシーンで言及されているが、  
実は根底で共通して必要な能力があると考えられる。  
これらの普遍的な要素を抽出し、5つの『基礎力』として整理した。

## 教育現場と企業の共通言語としての『基礎力』

ワークス研究所主任研究員  
辰巳哲子



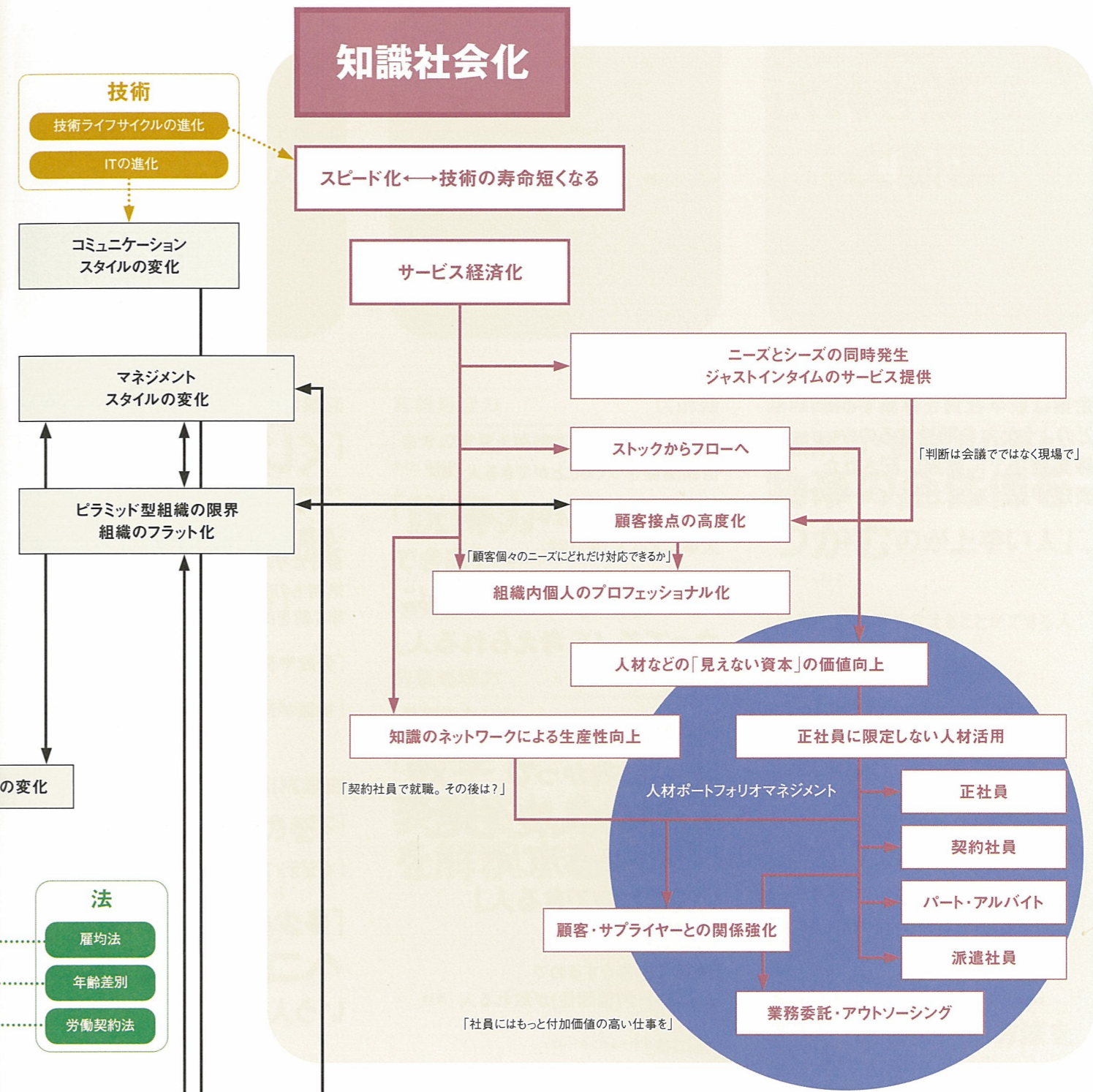
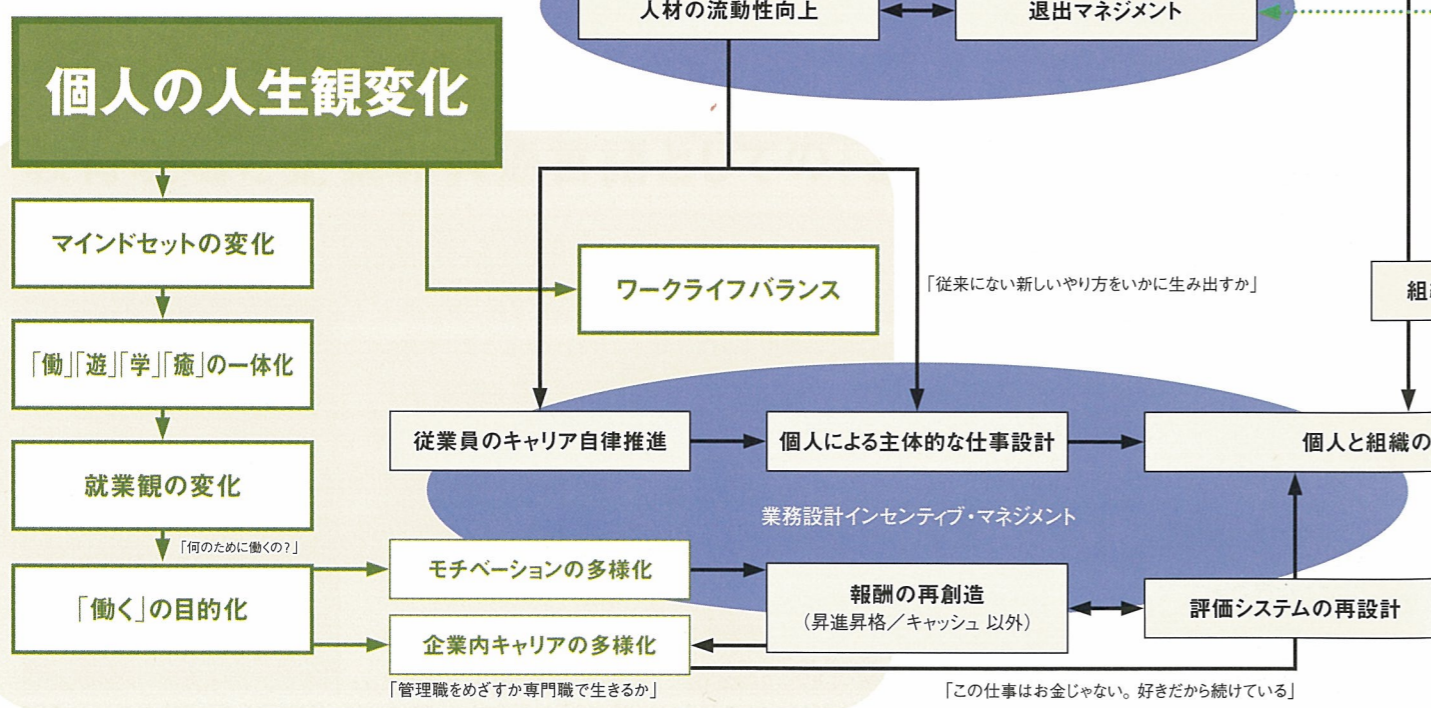
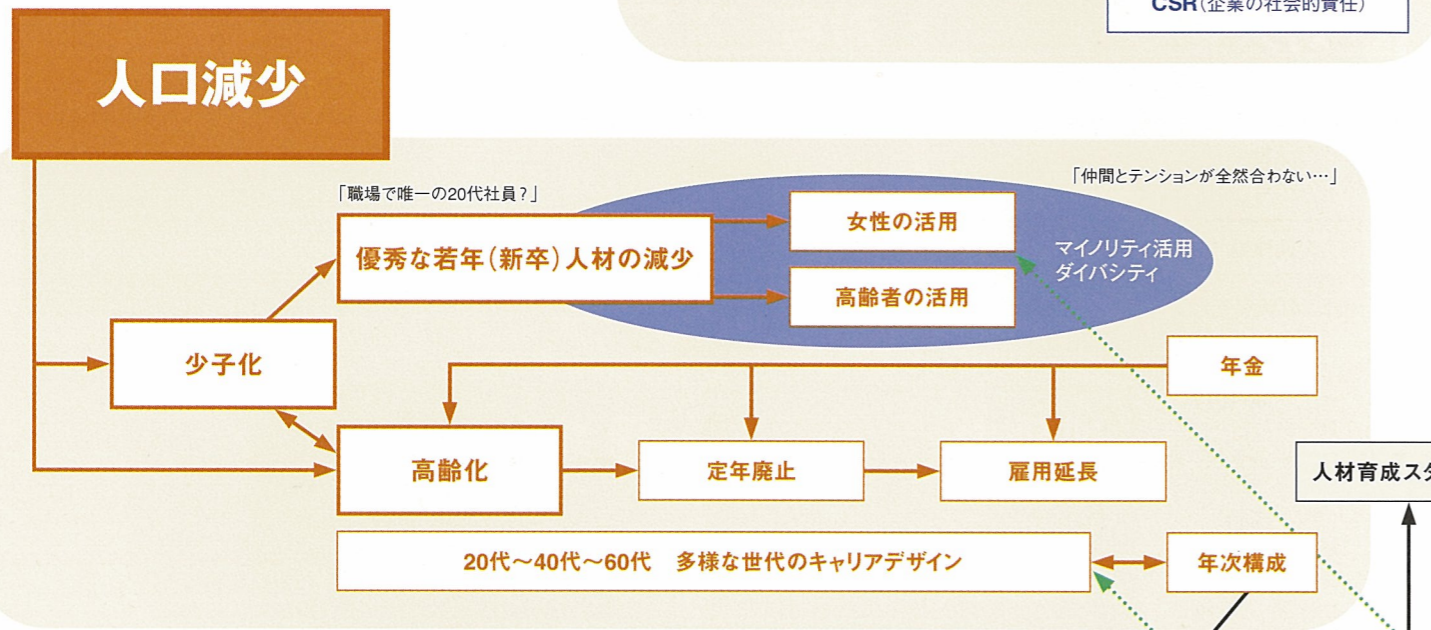
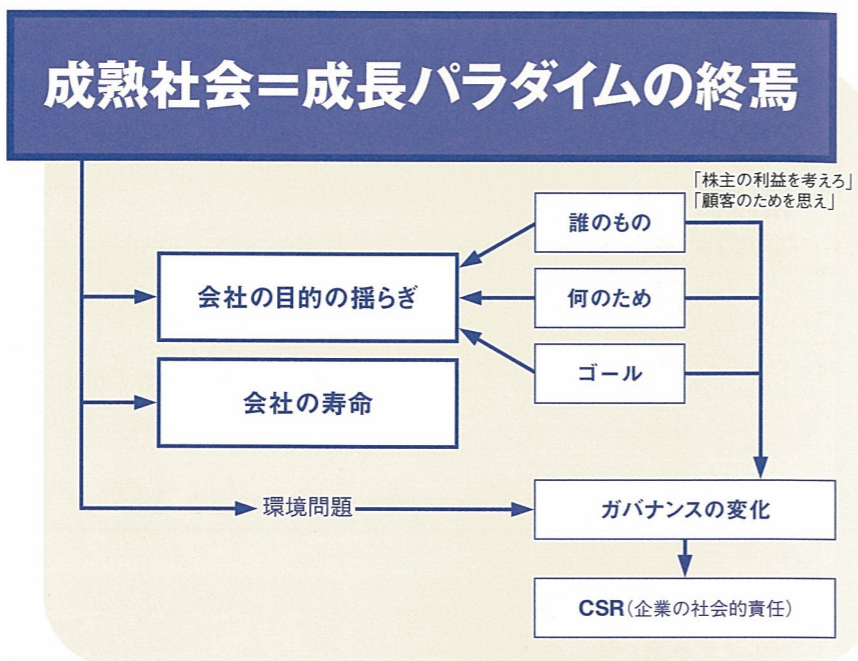
インターンシップや職場での体験学習など、企業と教育現場が協働する機会が昨今急激に増えています。ところが、必ずしも満足のいく成果は出ていない、との声が学校にも企業にもあるようです。社会で必要とされる力を身につけるためという、共通の目的を持つプログラムであるはずが、なぜ十分に機能しないのか。ワークス研究所は、その最大の原因は両者における共通言語の不在にあると考えました。例えば職種や業種を超えほとんどの企業が上げるコミュニケーション力。具体的に何をどうする能力なのか、企業と教育現場の認識はどれだけ一致しているでしょう。

ワークス研究所ではこうした共通言語化への試みとして、社会で働く上で必要とされる「基礎力」に関する研究に着手、要素の整理を行いました。これらが教育現場でさらに子どもたちの発達に応じた言語に翻訳され、企業からもより効果的な学習機会が継続的に提供されるようになれば、教育現場から職場への移行がスムーズに進む社会が実現するのではないのでしょうか。



【基礎力】の定義は、企業の採用時アセスメントツールの分析、人事部や現場の管理職、キャリア教育に携わる学校教諭、大学教授などへの取材を通じて行った。すべての働く人に必要な基礎力に対して、職種ごとに開発が必要な「専門力」、そして能力と相互に影響を及ぼしあう「態度」についても、表に加えた。

# 1 『基礎力』が必要とされる社会環境



変貌する社会。変わり始めた企業と人材との関係。  
この変革期の最大の犠牲者は、若者なのかもしれない。

ニートやフリーターの増加、たとえ就職してもわずか数年で退職する新入社員…。社会に適合できない若者の増加はいまや深刻な社会問題であり、彼らの未熟なキャリア意識を指摘する世の声は大きい。だが、我々はもう一方の彼らが置かれた社会そのものを起点にこの問題を問いたい。今、未曾有の変革期を迎えている日本社会。社会全体も、企業社会も、ビジネススタイルも、そして企業と個人の関係までもがつかない形態へと粛々と変貌を遂げつつある。これまで必要とされ身につけてきた力は、どこまで通用するのか。あらためて考えなければならない時期なのではないだろうか。これからの社会で働くために必要な『基礎力』をいかにして身につけるのか。キャリア教育において、『キャリア意識の涵養』と両輪をなすテーマとして考えてみたい。

# 2 採用基準に 記載された 『基礎力』

企業は新卒社員を募集する際、  
どのような力を期待するのか。  
募集要項<sup>※1</sup>に実際に記された  
表現から、『基礎力』をイメージする。

## 対人基礎力

### 親和力

「一緒に仕事をする周りの人と  
信頼関係をつくることができる人」建設

「ヒューマンコミュニケーションを  
大事にする人」商社(総合)

「常に相手の立場に  
立ってモノを考えられる人」  
スーパー・ストア

### 協働力

「目標に向かって  
周りの人たちと  
いっしょに協力して  
いくことのできる人」  
その他専門店・小売

「組織で仕事をするので  
チームワーク(協調性)が取れる人」農林

「協調性」ホームセンター・DIY

### 統率力

「受け身ではなく、自ら率先して  
行動を起こせる人」スーパー・ストア

「まわりをやる気にさせる人」設備関連

「周りを巻き込み  
ものごとを進めていける方」  
商社(事務機器・電子・OA関連)

## 對自己基礎力

### 感情制御力

「くじけない精神」  
その他専門店・小売

「失敗しても、何故か?を  
自分なりに考えたり、気分転換や  
気持ちのスイッチの切り替えをし、  
早く前を向いて進める人」商社(医療品)

「失敗や悔しさを励みにできる」百貨店

「情緒が安定している方」農林

### 自信創出力

「プラス思考で人生に前向きな人」その他商社

「ポジティブな考え方が出来る人」農林

「多少の事で自分は  
へこたれない、と  
いう人」住宅

### 行動持続力

「困難な壁にぶつかった時、  
どうやったら  
できるかを考える  
努力を惜しまない人」住宅

「自ら感じ、自ら考え、  
自ら行動を起こせる人」専門店(自動車関連)

「マニュアルや指示に頼らず、  
自分で考え行動できる方」農林

## 対課題基礎力

### 課題発見力

「課題を自ら見つけ出し、  
解決のために動くことができる人」  
専門店(自動車関連)

「解決すべき問題は何かを  
見つけ出す力」  
商社(機械)

「現状に満足することなく、  
常にベストな可能性を模索出来る」  
商社(総合アパレル)

### 計画立案力

「思い描いているものを  
現実にする力」鉱業

「自分の目標のために地道な努力や  
計画をたてて実行に移せる人」  
商社(衣料品)

「与えられた目標だけでなく  
目標そのものを自ら創り出せる人」  
専門店(自動車)

### 実践力

「フットワークがよい人」農林

「行動力・実行力  
(指示待ちでは  
なく、率先して  
行動できる)」建材

## 処理力

### 言語処理力

「自分の意見を明確に明瞭に話せる人」  
商社(食料品)

「説得力のある話が  
できる」コンビニエンスストア

「読解力」建設

### 数量処理力

「数理能力」建設

「数字で  
表現されたものを  
解釈する力」広告

## 思考力

### 論理的思考力

「理解力・思考力が高い…  
物事の全体像を  
つかむのが上手い人」  
スーパー・ストア

「論理的に物事を考えることができる人」  
スーパー・ストア

### 創造的思考力

「固定概念にとらわれず、  
物事の本質を考えられる人」  
商社(自動車関連)

「自分のアイデアを出し、  
それを組み合わせ新しい提案が出来る」  
商社(総合アパレル)

「従来の方法に  
とらわれること  
なく、さらに良い方法を  
生み出す発想力」専門店(化粧品)

「発想力、行動力のある『変化対応型』  
人材」スーパー・ストア

※1【調査概要】 本調査は、新規学卒者向け求人企業を掲載する就職情報サイト「リクナビ」(学生登録数58万人、掲載企業数約1万社)において、各企業が掲載している「選考基準」について、無作為抽出により33業界30社ずつ、計990社のデータを集計し、代表的なコメントを抜粋したもの。

# 3 『基礎力』が 使われる ビジネス場面

対人基礎力

対自己基礎力

対課題基礎力

処理力

思考力

基礎力とは具体的にどのような場面で使用される能力なのか。各職種のプロフェッショナルの証言から『基礎力』を理解する。

## 親和力

患者が治療に前向きになつてくれない●医師

「治療で一番大切なのは患者の治そうという意欲。しかし人間は機械ではない。理屈だけでは動けない。医師を信頼し前向きに病気と付き合う気持ちを引き出すコミュニケーション力がとれることが重要だ。患者はそれぞれ事情も年齢も性格も違う。応じた話し方ができないとならない」(大学病院医師・43才)

## 協働力

現場監督の仕切りが悪くては作業が進まない●大工

「建設現場には、左官、電気工事、内装…とさまざまな職人が出入りする。それらの工程を管理するのは現場監督の仕事だが、直接他の職人と頻りに連絡をとる。現場の進行や作業時期の目処が立ち、タイルと壁はどちらを先にするかなど、情報交換もできる」(大工・55才)

## 統率力

他の部署から反対意見が出た●デザイナー

「デザインを決めるまでにパタンナーやMD、素材担当、生産管理などとやり取りする。MDは売れるかどうか大事、生産管理は生産コスト重視と、利害が違う人達と協働するが、話を聞きながらも自分の主張は曲げない強さがないと、コンセプトの見えないデザインになる」(アパレル・デザイナー・32才)

## 感情制御力

対応が立て込んでるときにトラブルまで発生した●店長

「店長不在時など、電気系統のチェック、BGM、開店前のチェック、パートさんの労務管理・採用面談、とすべての対応を引き受けるが、どんなときでも事故やクレーム対応の際の冷静さは重要。こちらが冷静でないとお客さまにもパートさんにも迷惑をかけるし冷静でないリーダーに相談しようとする人はいない」(スーパー・副店長・40才)

## 行動持続力

今までチャレンジしたことがない仕事に来た●営業

「大きな仕事の一部ばかりやっていて、仕事は与えられるものという感覚になってしまったのか、せっかく高いレベルの仕事が与えられても、次にどんなことがあるか予想できず、待ちの姿勢になってしまう人がいる。自分から仕事を作る、取りに行くということができない人にはいい仕事は来ない」(広告業・営業・36才)

## 自信創出力

周りのレベルが高すぎてついていけない●システム設計

「新人のうちは特に、打ち合わせでの会話に入っていけなかったり、先輩がやっていることが実際以上に敷居が高く見えてしまうことがある。それでも諦めずに、常に前向きに取り組める力がないと、成長のスピードが落ちる」(技術者・45才)

## 課題発見力

納得のいかない指示を与えられた●百貨店販売

「あいさつの指示一つでも、なぜ大きな声でなければならぬのかまでは説明されない。納得できないからやれない、理由を聞けばわかるというのでは、本人が成長しない。行動の意味を自分なりに考え、見つける力がないといけない」(百貨店・販売・29才)

## 計画立案力

達成困難な営業目標を与えられた●営業

「営業職には目標(ノルマ)がある。営業で大切なのは、それを達成するための具体的な行動をイメージする力。どの会社から営業を始めるか、何件営業すればいいか、どんな資料を用意するかと計画を立てるのは日常業務とも言える」(情報サービス・営業・36才)

## 実践力

今までにない新鮮でおもしろい企画を期待された●編集

「企画は机の前で生まれるわけではない。関連資料を読むとか読者ターゲットのニーズを探るといった直接的な行動だけでなく、日々アンテナを張り自分にインプットする実践がなければ、長時間考えたところで新鮮さもおもしろさも実感値もない企画しか考え出せない。そんなものは企画とも呼べない」(出版・編集・40才)

## 言語処理力

仕事相手になかなか意図が伝わらない●システム設計

「外注先へのシステム設計依頼をメンバーに書かせたら、間違った仕様で開発を進めそうになり危うく1億円の損失が出る場所だった。仕様書に書かれた日本語がわかりづらかったのが原因。誰が読んでもわかる正しい文章を書く能力は非常に重要」(電機メーカー・システム設計・43才)

## 数量処理力

仕入コスト・作業時間の縮小を命じられた●パタンナー

「服は立体なので、長さを測るためには円周や倍率、縮み率などをつかった計算ができないと困るが、タイムマネジメントでも数字は大事。仮縫いに何分、CADで何分、工場生産で何分かかるからというように納期から逆算して自分の作業時間を設定する」(アパレル・パタンナー・33才)

## 論理的思考力

システムトラブルで大至急の対応を求められた●システム設計

「トラブルの際、一番いけないのは思いつきの対応策をとってしまうこと。関心の高い部分に気を取られてしまったり、知ってる範囲だけで考えてしまうとうなる。他の方法やリスクまでを検討し、メリット・デメリットを整理する論理性が大切」(ソフトウェア・システム設計・45才)

## 創造的思考力

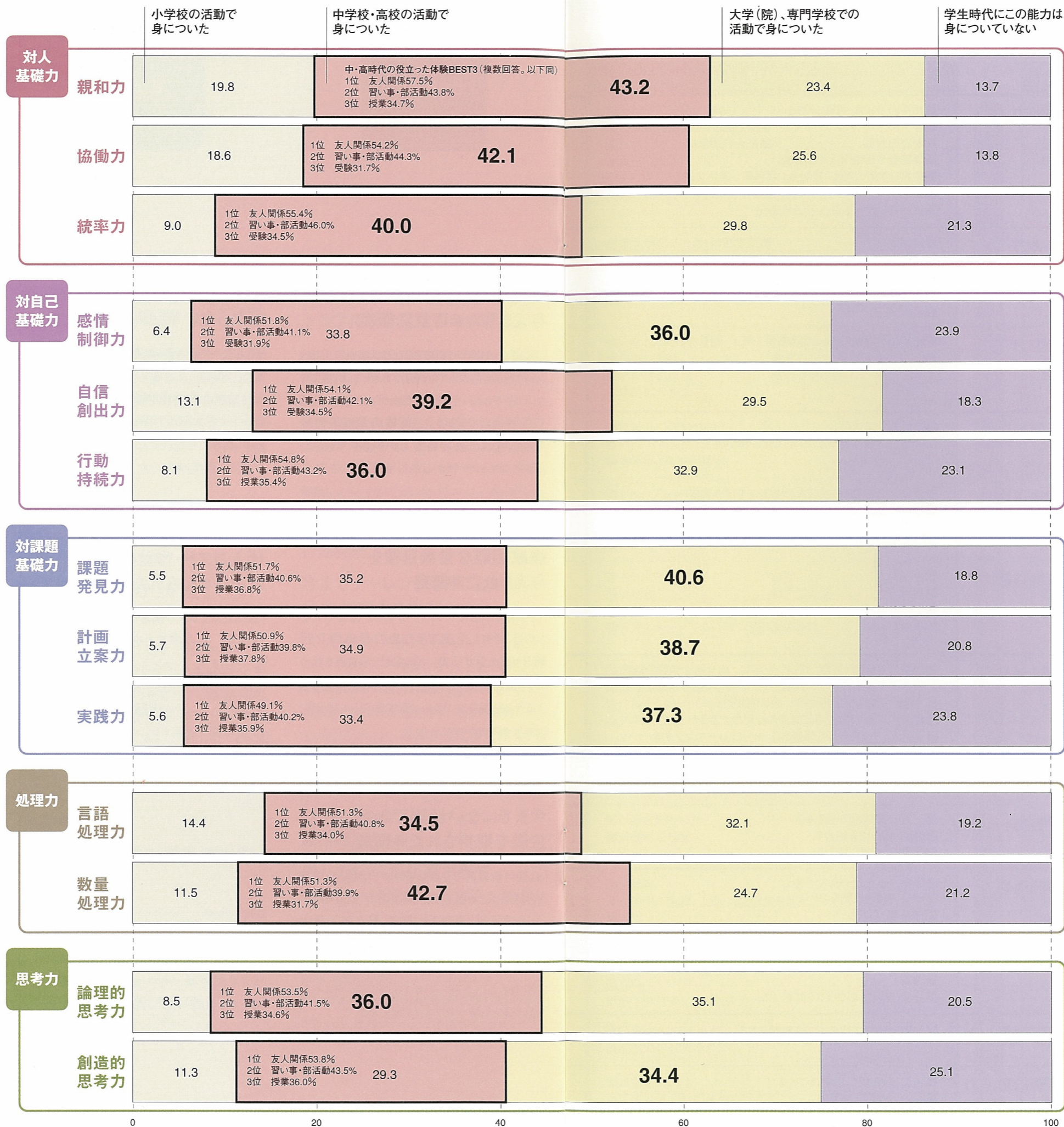
調査をゼロから任された●リサーチャー

「調査の分析は経験がものを言うが、調査を設計する作業では、創造的な思考力がないと難しい。社会の現象を見て何が問題なのか仮説立てをし、この仮説を明らかにするためにどのような調査をすればよいか、誰を対象としてどんな切り口で質問をするのかということを考える」(調査・リサーチャー・50才)

# 4 『基礎力』を身につけた時期

人は、いつどのようにして『基礎力』を身につけるのか。社会人へのアンケートから、定着時期、影響活動を推測する。

身につけた時期と最も役立つ活動 (%)



## 小学校時代

### 一般的に基礎を築いていく時代

小学校時代に身についたと言い切れる基礎力は少ない。が、小学校の段階で基礎的な親和力、協働力、行動持続力、言語処理力が身につけていない場合、中学になってからこの力を身につけ始めることは難しい。特に自我、互いの違いの認識などが急速に発達する小学校高学年は重要で、年少の子の手伝いをする(親和力)、一日の出来事を家庭で伝える(言語処理力)など日々の活動の中で力を身につけていく時期である。

## 中学・高校時代

### 対人基礎力、対自己基礎力の育成が重要

すべての基礎力について、その形成に重要な役割を及ぼすのがこの時期。思春期を迎え内面的な成長が進むと同時に、部活、体育祭・文化祭などの集団活動、アルバイトなど、コミュニケーションの場も拡大。こうした場の有効活用が、特に対人基礎力、対自己基礎力に好影響を与える。また、この時期身につける四則演算能力が働く上での数量処理力に直結する点も見逃せない事実だ。

## 大学・専門学校時代

### 対課題基礎力を開発する時期

対課題基礎力を飛躍的に伸ばすのは、大学・専門学校の時期である。この時期にはゼミ活動、レポート、実習、またはサークル運営など、課題の設定から解決に至るまでのプロセスに主体的に関わる機会が、それまでに比べ急速に増加する。こうした機会を利用し実践した体験的取り組みは、将来の社会生活のシミュレーションとして非常に有効である。

## 課題

### 身につけにくい創造的思考力

教育現場に大きな課題を残すのが創造的思考力だ。学生時代に身につけなかったと感じている社会人が非常に多い。また、感情制御力、実践力、自信創出力にも同様の傾向が見られ、昨今の若者の職場不適合を裏付ける結果となった。これらの能力は特に家庭で育成される面も大きく、家庭と教育現場、双方での開発機会を増やすことが望ましい分野である。

【調査概要】 首都圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県)・東海(愛知県、岐阜県)・関西(京都府、大阪府、兵庫県)在住の20-24歳の男女(有職者・無職者・学生※専門学校・大学(院)卒業生)に対し「学生時代の学びや経験を通じて身につけた能力」について、能力ごとに小、中高、大学(院)、学生時代には特に身につけていない、から複数選択のアンケートを実施。2000件(男性1000件、女性1000件)の回答を得た。協力/NTTナビスペース(株)

# 5 『基礎力』が育つ 学校活動

『基礎力』が必要となる場面は、ビジネス活動に限らない。教育現場での類似場面として、小学校・中学校・大学の例を列挙した。さて、高校ではどんな場面を挙げることができるだろうか。

		小学校	中学校	大学
対人基礎力	親和力	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の身になって思いやる</li> <li>年下の子の世話</li> <li>動物の世話</li> <li>高齢者や障害者とのふれあい</li> <li>縦割り学習：掃除、運動会、収穫祭、遠足などでの下級生指導</li> <li>地域学習：地域に対する提案などの活動</li> <li>生活科：新一年生への学校紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>放課後に一緒に遊ぶ</li> <li>立場の違う人との意見交換</li> <li>教科の中での班活動</li> <li>班での掲示物づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中、話したことのない学生と話し合う</li> <li>教室外で教員に挨拶する</li> <li>留学生の世話をする</li> <li>ボランティア活動をする</li> </ul>
	協働力	<ul style="list-style-type: none"> <li>班活動</li> <li>運動会</li> <li>掃除</li> <li>総合学習</li> <li>インタビュー学習</li> <li>修学旅行</li> <li>社会見学</li> <li>給食の用意</li> <li>調べ学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外学習での係分担</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>演習でのグループ活動</li> <li>ゼミ発表会の運営</li> <li>卒論研究に関する協力</li> </ul>
	統率力	<ul style="list-style-type: none"> <li>班活動(班長がグループの意見を聞き、意見をまとめる)</li> <li>ディベート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日直</li> <li>縦割り活動</li> <li>朝の会の運営</li> <li>学級会の運営</li> <li>司会者を置かず議論をする</li> <li>教科班のリーダー</li> <li>責任者体験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サークル運営</li> <li>大学祭運営</li> <li>ゼミでのグループ活動の統率</li> </ul>
対自己基礎力	感情制御力	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常の学級活動：けんかをした時に手を出さない</li> <li>お楽しみ会・レクリエーション：はしゃぎすぎない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動会の団体競技</li> <li>トラブルが起こった場面を再現して対応策を考える</li> <li>他学年との共同活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長時間の協同作業</li> <li>ゼミの打ち上げ</li> </ul>
	自信創出力	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科以外の活動(掃除など)に対するほめ言葉</li> <li>授業で発言・意見を認められる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループシャッフル</li> <li>各種検定試験(英検)などの合格</li> <li>部活動での入賞</li> <li>絶対成功するとわかっている仕事(係活動など)を任せる</li> <li>発表の場を設ける</li> <li>自分史を作る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>演習での発表</li> <li>講義での発言</li> <li>レポートが授業で紹介される</li> <li>高い成績</li> </ul>
	行動持続力	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ</li> <li>掃除</li> <li>定時の登校</li> <li>宿題をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動</li> <li>係活動</li> <li>授業に参加する</li> <li>特定のテーマでの新聞の切り抜き継続</li> <li>朝読書</li> <li>遅刻指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必修でない授業の履修</li> <li>遅刻・欠席しない</li> <li>関連書籍を読む</li> <li>自主的な発言</li> <li>授業時間外の作業</li> </ul>
対課題基礎力	課題発見力	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決学習(算数、理科、生活科、総合的な学習の時間など)：川の水の汚れについて何故汚れているのかを分析する</li> <li>社会科：海辺に工場が多いのは何故だろう？</li> <li>植物の観察：双葉が出てくるのは何故だろう？</li> <li>クラブ活動：チームの課題を見つけてトレーニングする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめについて話し合う</li> <li>総合のテーマを話し合う</li> <li>何故そうなのかを考える</li> <li>テストを受け、受験に足りない力を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒論テーマの決定</li> <li>記述式試験</li> <li>レポートのテーマ決定</li> </ul>
	計画立案力	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間割合わせ</li> <li>グループ学習：各自担当する事柄を調べて班でまとめ、発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去の失敗を踏まえたルールづくり</li> <li>遠足での班別行動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修科目の選択</li> <li>就職活動</li> <li>授業と他の活動との両立</li> <li>研究計画を立てる</li> </ul>
	実践力	<ul style="list-style-type: none"> <li>一斉音読：まずやってみる</li> <li>図工：絵を描き始める</li> <li>作文：まず書いてみる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画を実行する</li> <li>課題解決授業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>推薦図書を買ってみる</li> <li>研究会や講座に出かける</li> <li>地域での活動に継続的に参加する</li> <li>興味をもって自分で調べる</li> </ul>
処理力	言語処理力	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語。感想文や作文を書く</li> <li>理科の観察日誌をつける</li> <li>放送系の活動</li> <li>授業中に発表する、他の人の発表内容を聞く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝読書</li> <li>授業中の発表、他の人の発表を聞く</li> <li>国語</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文の執筆</li> <li>レポートをまとめる</li> <li>口頭試問</li> <li>記述式試験</li> </ul>
	数量処理力	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数</li> <li>理科</li> <li>社会(資料集のグラフを解釈する)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学</li> <li>理科</li> <li>修学旅行中など金銭の管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>統計学</li> <li>サークルやNPOなど予算計画を立てる</li> <li>アルバイト</li> </ul>
思考力	論理的思考力	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表や作文で順序だてて説明をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>板書内容をまとめる</li> <li>感想文や教室のポスターづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文の執筆</li> <li>レポートの執筆</li> </ul>
	創造的思考力	<ul style="list-style-type: none"> <li>図工：絵を描く、作品をつくる</li> <li>国語：お話をつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章をまとめる</li> <li>職場体験活動の体験内容をポスターにまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>論文テーマの設定</li> <li>アルバイト</li> </ul>

さて高校では？

# 6 『基礎力』を育成する 教育現場事例

『基礎力』を育成するキャリア教育プログラムとは？  
社会で働く上で必要となる力を  
プログラム化した3校からヒントを得る。

## 小学校

### 働く人の声を伝え、 協働力を実感させる

根本名小学校(千葉県公立)

プログラム概要 ●科目:小学校5年生社会科単元「わたしたちの生活と工業生産」  
●プログラム名:「工業生産と貿易」  
●授業形式:1クラス35人への45分授業×5時間  
●特徴:うち3時間に企業人が講師として参加

**ニーズ・きっかけ** 将来像を描けない学生の増加に危機感を持った三井物産人事総務部川島康敬氏と、千葉大学主体のNPO企業教育研究会(ACE)が授業プログラムを開発。成田市の根子名小学校で実施

**プログラムの流れ** 1時限:輸出と輸入のしくみを、学習。  
2時限:加工貿易を中心に発展してきた日本について学習。  
3時限:エビを題材とした貿易のプロセスについて働く人達の仕事にかかる想いと共に学ぶ(ミャンマーでのエビ漁から日本での商品化までの7枚の写真を使用)  
→協働力への共感醸成  
4時限:資料集を使った貿易の動向を学ぶ  
5時限:「貿易の課題」とその解決策を考える(課題:鉄鋼石の輸入先であるオーストラリアと戦争になったらどんな問題が起こるか?解決策は?)  
→課題発見力

**実施後の児童の反応** 授業の最後、児童の書いた感想には「仕事も協力してやるのが大事だと思った」「この人はえびを食べる人が喜んでくれることを大事に仕事をしている」などの言葉が並んだ。

#### 基礎力育成のポイント

- 実際に貿易業務にたずさわっていた企業人が講師役
- 講師の言葉例「友たちと遊ぶと楽しいように、仕事でも同じ目標と一緒に向かう仲間が大切なんだよ。話す言葉は違っても、仕事するときの気持ちは同じで、お客さんの喜ぶ顔が見たいんだ」

## 高校

### 幸せと成功を切り口に、 社会で必要な力を考えさせる

田園調布雙葉中学高等学校(東京都私立)

プログラム概要 ●科目:高3選択科目「プレゼンテーション実習」  
●プログラム名:「2013年、26歳のありたい自分を表現する」  
●授業形式:1クラス9名への2時間授業  
●特徴:企業人30名をチューター役に招き、生徒1社会人3のグループを形成

**ニーズ・きっかけ** 卒業記念発表として、「幸せになろうプロジェクト」2013年、26歳のありたい自分を表現しようという授業を数時間かけて実施。ありたい自分に必要な基礎力を考えることに。

**授業のステップ** 1)幸せや成功について考える  
2)生徒と社会人がともに「自分がやりたい仕事かやりたくない仕事か」「お金になるかならないか」の2軸人生を考える。共有後、自分が歩みたい人生を発表する  
3)幸せや成功に必要な基礎力と開発方法を考える  
①チェックシートで、自分の持つ基礎力と不足している基礎力を知る。  
②開発方法を社会人に相談しながらまとめ、発表  
→基礎力を自己評価  
→基礎力開発方法についてイメージを持つ

**実施後の生徒の反応** 最後の生徒たちの感想では「私は楽天力(自信創出力と同義)が低いんだけど、悩みを抱え込むのではなく、どうすればいいのか考えることが大切だとわかった」「継続学習力(行動持続力と同義)を強くするには、小さい目標を立てて確実にこなすといいとわかったので、早速やってみようと思う」などの発言が目立った。

#### 基礎力育成のポイント

- 基礎力の保有状況を高校生が自己分析
- チェックシートの項目例「自分なりのストレス解消方法を持っている」「おしゃべりの場では人からの話題に関心を持ち、状況を読んで対応できる」

## 大学院

### 身につけたい力を基準に シラバス研究・カリキュラム選択

立命館大学大学院(京都府私立)

プログラム概要 ●対象:大学院生(理工学研究科と法科大学院を除く11の研究科)  
●プログラム名:キャリアデザインプログラム  
●授業形式:選択制講座 大学院入学前の2月、2日間

**ニーズ・きっかけ** 大学院進学者の増加とともに高度専門職を目指す院生も増加したが、就職率が低下。そこで、進学前に大学院で学んだことを将来に生かす意識付けのためのプログラムを実施することに

**プログラムの流れ** ①診断テスト、グループワークなどを通して、自分の志向、価値観、コンピテンシーなどを確認する  
②目標とする職業を選び、必要な知識やコンピテンシーについて考え、①で確認した自分の将来の方向性と照合・確認する。  
→自分の将来に必要な基礎力を知る  
③必要なコンピテンシーを身につけるために、大学院でどの講義を受講すべきかを、シラバスから読み解く方法を学ぶ。  
→該当する基礎力が身につく講義を選ぶ

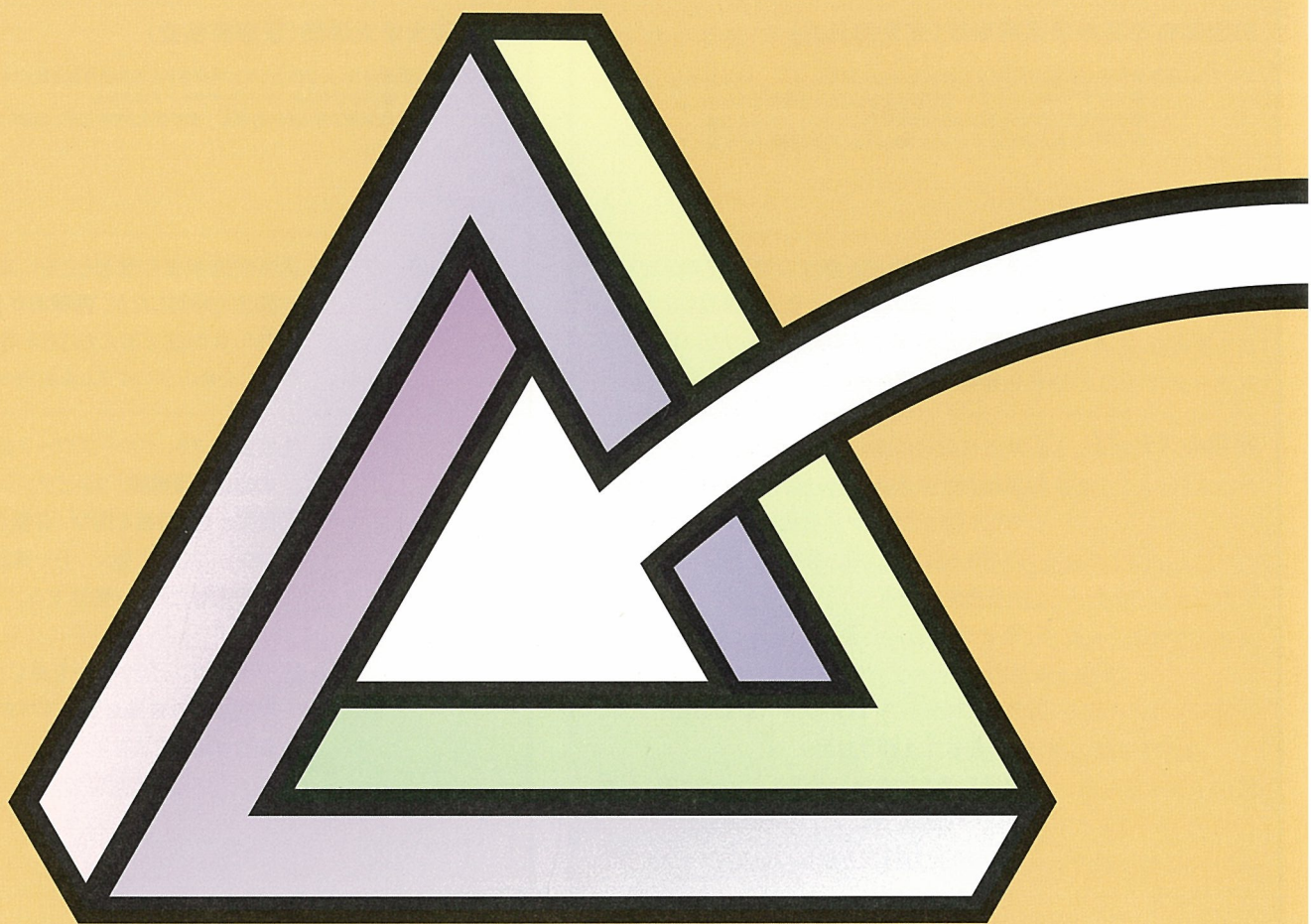
**成果** 2004年に初回実施。まだ卒業生を輩出していないため成果の検証はこれからだが、入学前ではなく修士1年で受講した学生についてはほぼ全員就職先を確定している。

#### 基礎力育成のポイント

- 身につく力のキーワードごとにシラバスを整理
- キーワード例「グループの中ではテーマごとに担当を決め、その問題に関しては他の学生に教えることができる程度に学習を深める」



RECRUIT



## Works Institute

株式会社リクルート ワークス研究所 〒105-0021 港区東新橋1-2-5 リクルート東新橋ビル9F TEL:03-3575-5849 FAX:03-3575-6886 E-mail:works@r.recruit.co.jp  
ワークス研究所の詳細につきましては、右記ウェブサイトをご参照ください。 [www.works-i.com/](http://www.works-i.com/)

Copyright Recruit Co.,Ltd.2006